

嶋田智明(編集主幹)
天満和人・奥村チカ子(編)

「セラピストのための 概説リハビリテーション」

小川恵一
(新潟保健医療専門学校理学療法学科)

リハビリテーションという用語がわが国で使われだすようになって 50 年以上が経過している。これは理念や思想であり、当初から現在に至るまで変わることなく、普遍的である。その一方で、リハビリテーションの理念をもとに、それに関わる各専門職の独自性や専門性は大きく発展し、社会の変化にあわせて実践方法も変化してきている。そこで、これからリハビリテーションに関わるセラピストを目指す学生の学習に、ふさわしい教科書の必要性をあらためて感じている。

理学療法士養成課程で専門分野として早期に学習する科目がリハビリテーション概論である。理学療法士に限らず、作業療法士、言語聴覚士、看護師、社会福祉士などリハビリテーションに関わる専門職養成課程においても同様である。これまでのこの科目の教科書は、初めてリハビリテーションを学ぶ学生にとっては専門用語の量が多く、その内容も濃密なためにポイントをつかむことは難しかった。学習段階を考慮すれば、リハビリテーションを理解する最低限度の知識、すなわちコア(核)とは何か、また、リハビリテーションの

全体像とは何かをわかりやすく整理し、教えるべきではないかと考える。

この「セラピストのための概説リハビリテーション」は、まさにそのような考えの立場から執筆、編集され、セラピストの目線からリハビリテーションのコアを示している点と、リハビリテーションの全体像を初心者にわかりやすく示している点が最大の特徴である。本書は 3 部構成からなり、第 1 部はリハビリテーションの理念や目的、第 2 部はリハビリテーション専門職の役割と独自性、第 3 部はリハビリテーション医療の展開となっている。各部の各章において学生に理解してもらいたい最低限度の知識を「学習目標」として章の冒頭で明確に提示し、図や絵を多く活用しながらわかりやすく説明がされている。特に第 2 部では、リハビリテーションに関わる各専門職の独自性・専門性や、リハビリテーション医療への関わりについて、一般的な解説にとどまらず、第一線で活躍されている専門職の方々から実践を踏まえて具体的かつ丁寧に説明されている。

本書を手に取り読み進めると、リハビリテーションを学ぶ学生にとって「頼りになる羅針盤」となることを願う編集者や執筆者の情熱が伝わってくる。ぜひ、学生のみならず、後輩の教育に情熱を持つセラピストの手元に置くことを薦める書である。

●B5 判・272 頁・2 色刷

定価 4,200 円(本体 4,000 円+税)

2009 年 文光堂・刊